

パイロットオフィスを設置しました

創造性を高める【well-beingな職場づくり】 新庁舎整備を待たずに働き方改革に取り組みます。

7月18日より働き方改革の1つの取組として一部の部署に対し大規模なオフィス改革を実施しました。

令和3年度より働き方改革の取組として各種研修会の開催や、総合政策部3階フロアにおいて、不要文書の削減、脇机の撤去、協議用机の複数設置、固定席の廃止など“すぐに出来ること”に取り組んでいましたが、その効果等を可視化、またさらに広げていくために今回の実施に至りました。

新しいオフィスには「窓口対応席」「集中席」「ファミレス席」「ハイカウンター席」「ビッグテーブル席」を用意しており、決められた席に座るのではなく、自分で座る席を選びます。これにより、コミュニケーションの活性化や生産性の向上が期待できます。新しいオフィスレイアウトは若手職員によるワークショップを重ね「これからはこう働きたい」が具現化できるものとなっています。

改革したオフィスは新庁舎での働く場を先取りする「パイロットオフィス」とし、出てきた課題は新庁舎整備に反映します。取組詳細は以下のとおりです。

0. 働き方改革（オフィス改革）が求められる背景

「失われた30年」と表現されるように、日本の一人当たり労働生産性は1970年以降過去最低を記録。アメリカ、イギリス、フランス、韓国などOECD加盟国38国中29位（公益財団法人日本生産性本部2022.12報告）。また、この30年間で、世界時価総額ランキングトップ50の中に日本企業は1社もない状況になってしまいました。（1989年には32社がランクイン）

諸外国は新しい価値を生み出し続ける必要性に早々に気づき、「創造性を高める」働き方にシフトさせていたため、生産性が上がったとされています。日本企業でも生産性を向上させるために、近年、働き方やオフィス環境を見直す企業が増えてきており、国においては総務省行政管理局がいち早く働き方改革に取り組んでいます。多くの自治体も次々と働き方改革の取組を始めています。

私たち公務員は、市民とともに未来を創造する担い手です。VUCA時代に対応し、魅力ある街づくりに取り組むために、これまでのお役所仕事と揶揄される働き方から脱却し、時代に即したサービスや市を魅力的にするアイデアが次々と生まれる創造性の高い働き方に変える必要があります。

創造性を高めるためには、個人の能力が最大限に発揮できるようなwell-beingな職場づくりが欠かせません。

* well-being

ウェルビーイングとは、「身体・精神・社会的に満たされた状態」と定義されています。

ウェルビーイングな職場づくりとは、やりがいを持って生き生きと働ける職場の実現を目指すものです。

1. オフィス改革、パイロットオフィス設置部署

場 所：市役所本庁2階 市民部エリア

(環境課、交通政策課、人権・市民生活課、窓口サービス準備室)

選定理由：窓口対応、相談業務、企画系業務など複合的に担当しており、
さらに、市民や職員が多く通る場所にある。

職 員 数：約 30 名

2. パイロットオフィス設置目的と期待される効果

(目的)

- ・オフィス改革（働き方改革）の効果を職員や市民に可視化し、変革の必要性を共有する。
- ・パイロットオフィスでの課題を洗い出し、新庁舎整備に反映させる。

(ねらい)

- ・コミュニケーションの活性化
- ・業務効率化

(期待される具体的効果)

- ・新たなアイデアの創出
- ・縦割り意識の軽減化
- ・心理的安全性の確保
- ・自分自身の状態に応じて場所を選ぶことができることにより能力を最大限発揮できる。
- ・気軽に協議ができる場所を設置することで、意思決定が迅速化する。
- ・個人書類の削減

等々

3. パイロットオフィス設置の流れ

令和4年度

① 働き方を考えるワークショップの開催（全6回）

運営：京都工芸繊維大学 工芸科学部仲研究室＋イトーキ関西支店

学生リーダー：岡田明日香さん（桐原学区在住）＊当時4回生

対象：パイロットオフィス対象エリアの若手職員

ワークショップで考えた若手職員による「これからはこう働きたい」とアンケート調査で見えてきた課題を解決するためのレイアウトを作成。

② 文書量の削減

限られたスペースを職員の働き方改革に活用するために、文書量を削減。

4. レイアウト図

*実際の配置とは少々異なります



5. 今後の予定

- ・ 定期的（年内は月1回、その後は数か月ごとを予定）な振り返りにより課題を洗い出し、ブラッシュアップを続け新庁舎整備に反映します。
- ・ 対象部署による振り返りやブラッシュアップの内容、他部署からの意見については、庁内掲示板や研修会等で全庁的に共有します。

6. 対象職員の感想（それぞれの職位ごとに数名ずつヒアリング）

【良い面】

- ◆ 他課、他グループ間のコミュニケーションが活発化した。
- ◆ 毎日違う席に座ることができるので気分転換になる。そのことで仕事にメリハリが出来た。
- ◆ 窓口担当席を設けたことで、窓口担当以外の時に事務や企画業務などが捗るようになった。
- ◆ フロアの雰囲気よくなった。
- ◆ リラックスしながら仕事に取り組むことができる。
- ◆ 毎日違うメンバーと仕事をすることで、耳に入ってくる話題が毎日違う。新鮮でよい。
- ◆ 什器も新しくなり、スペースも広くなり働きやすくなった。
- ◆ 清潔なので気分がよい
- ◆ 他課、他グループの話が意識しなくても耳に入ってくるので自然と他の業務を知

ることができている。

- ◆ 仕切りがあることで、昼休みにしっかりと休息が取れている。
- ◆ 以前の環境には戻れない。
- ◆ パイロットオフィスが始まる前は不安だったが、スタートしてみると意外と大丈夫だった。
- ◆ リクルート対策にもなると思う。

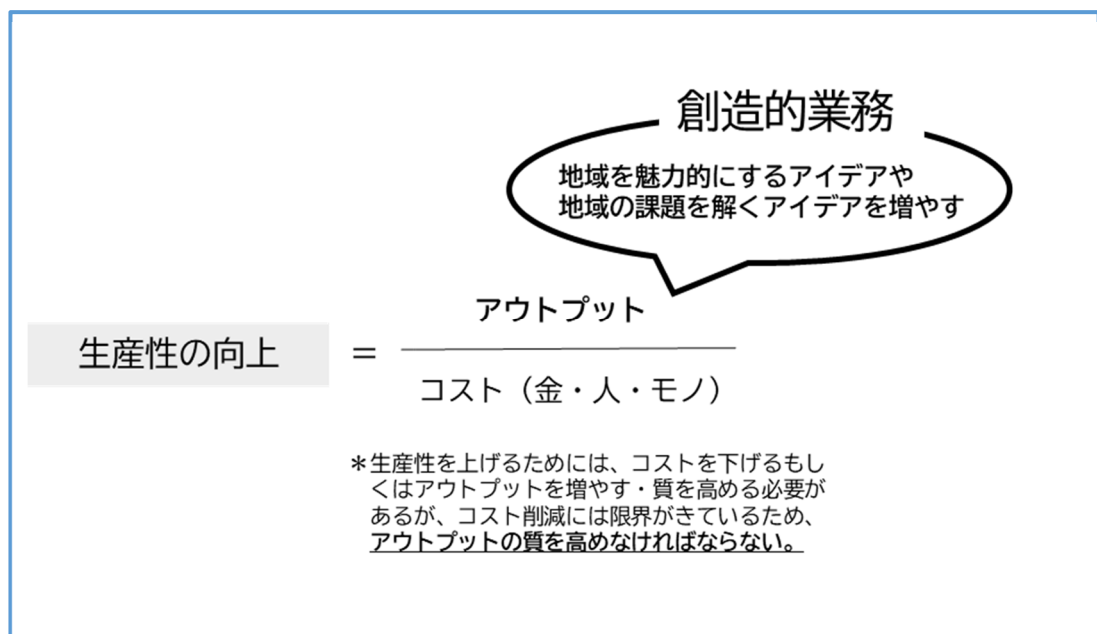
【課題】

- ◆ 紙ベースの仕事方法が変わっていないので、書類を回す時などに探さないといけない。
- ◆ 先輩職員が近くに座っていない時など、分からないことがすぐに聞けないことがある。
- ◆ 始業時の準備、終業時の片付けが今までより時間がかかる。
- ◆ 誰がどこに座っているか探さないといけないため時間のロスになることがある。
- ◆ 課内の情報共有が出来ているのか心配。
- ◆ 上記課題を解決するために働き方を変える必要があるが十分に浸透していない
(参考書類、共通マニュアル等をデータ化して共有する、LOGO チャットを使って情報伝達をする、グループウェアでスケジュールを管理する等)
- ◆ 出勤時間によっては【残った席】に座ることになっている。

7. その他（補足）

【生産性の向上について】

*仲教授 研修資料参照



before

環境課と人権・市民生活課、交通生活課の間に壁がある。
物理的に3課が交わりにくい環境になっている。



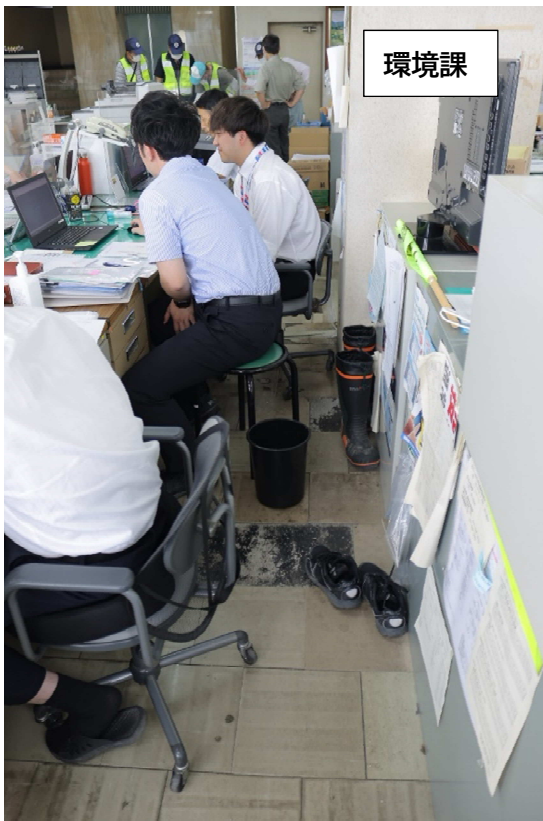
■ 3課共通の課題

- ・イスと什器の間が狭く通りにくい。
- ・共有すべき文書が個人所有となっている等、紙文書が多くスペースを圧迫している。
- ・収納庫の上に物が置かれており危険な状態。
- ・業務終了後はクリアデスクの運用となっていないため、セキュリティ面でも脆弱な状態である。





東側：環境課



環境課



交通政策課



床

・タイルがはがれており、つまづく危険がある。

after

<3課合同窓口>

■ クイック窓口

オンライン申請、書かない窓口化などを進め、出来る限り窓口での手続き時間を短くします。



■ じっくり窓口

ゆっくり時間をかけて要件を聞く必要がある申請、相談を受ける窓口です。



3課の職員がそれぞれ順番で窓口当番席に座り、窓口と電話の対応を専門的におこないます。現在は必ず管理職1名が座る運用となっています。



■相談室

主に消費生活センターの相談室として使うが、他部署の協議や会議も利用可



<座席は選択します>

集中したい時、打合せをしたい時、リラックスして企画を練りたい時等、個人の能力を最大化させるため、個人の業務の進捗状況や心身の状況に応じて執務席を選択します。



■ファミレス席

打合せ、リラックスした状態での業務、休憩などに利用

■窓側席 (ハイカウンター席)

少し集中したいとき、立ち作業、立ちミーティングも可



■ビッグテーブル席

カフェで仕事をするようなイメージ。
連帯感が生まれやすい（縦割り意識の
軽減化にも期待できる）
大きな図面なども広げられる



■集中席（2席分）

資料を仕上げる時等、集中したい作業
時に利用



■個人ロッカー

私物の保管はこのロッカー限り。帰宅時には全ての荷物を片付けクリアデスクを
徹底。セキュリティの強化やスペースの有効活用に繋がります。

